

特集1

今年の県政は、どんな二年でしたか

この一年 皆さんにとつてどんな年でしたか 県では 行財政改革を進めつつ、
「元気で明るい熊本づくり」に向けて、さまざまに取り組みを進めました。

2005

1月

「第三十一回全国育樹祭」の
式典会場決定
平成十九年秋に、皇太子殿下・同
妃殿下をお迎えして行われる「第三十一回全国
育樹祭」の式典会場が阿蘇みんなの森（阿蘇市）
に決定し、開催に向けた準備を進めています。

2月

県独自の品種の開発と普及、
県産品ブランド化の推進
熊本でい草の栽培が始まって五
〇〇年を迎えた今年、二月に置表創業五〇〇
周年記念大会が開催され、県では、い草の新
品種「夕風」を開発（九月公表）また、いちご
「ひのしずく」、肉用鶏「天草大王」などの普
及に取り組みとともに、極わせみかんの名称
を関係団体とともに「肥のさきがけ」に統一
（十月）するなど、県産品のブランド化を進め
ています。

3月

くまもと電子申請窓口
「よろず申請本舗」の運用開始
住民票の写しや納税証明書の取
得申請、パスポート申請など、県・市町村合
わせて一〇〇種類以上（十二月現在）の手続
きが、自宅や職場からインターネットでいつ
でも行えるようになりました。



天草大王

ひのしずく

4月

防災情報の一元化、
インターネットでの提供開始
気象・水防・土砂災害の三つの防
災情報を一元化し、直接市町村などに一括自
動送信を行うとともに、これらの情報を即時
に提供する「熊本県統合型防災情報システム」
のホームページを開設しました。



観光船「北都」が整備された観光船「北都」の
トイレや冷房が整備された観光船「北都」の
うたせ船「北都」を策定。県内各地で
「我がまちの宝」を探
し、磨き上げやもて
なしスタッフの育成
などを進めています。

5月

「元気人気くまもと農業運動」スタート
「もう一口！大きくならう」をキャッチフ
レーズに、生産者や農業団体、消費者団体な
どと一体になってこの運動を進めています。
取り組みの一つとして、十月から毎月第二週
の金・土・日曜日を、どこでも農林水産業や
農山漁村の豊
かさを体験・
体感できる
「うまか〜！
くまもと元気
の日」と定め
ました。



「元気人気くまもと農業運動」のポスター

6月

小児救急電話相談の開始
「子育てするなら熊本で」といわ
れる子育て先進県を目指して、「く
まもと子育て・子育て応援大作戦」を四月から
スタート。取り組みの一つとして、夜間の子
どもの病気やけが、応急処置などの相談を、
「＃（シャープ）8000」（携帯電話やダイヤル
回線電話からは096・364・9999）で
受け付ける小児救急電話相談を開始しました。



森林
を伐採した
の財産として守り育て、
なすの世代に引き継いでい
くために導入しました。
水を防いだり、土砂崩
れを防いだり、二酸化炭
素を吸収したりする働き
を持つ森林を、県民みん
なの財産として守り育て、
なすの世代に引き継いでい
くために導入しました。

5月

企業誘致進み、
経済の活性化に期待
ソニーセミコンダクタ九州（備）の
第二工場が着工。そのほか富士電機システム
ズ（備）の進出（八月）など本県への企業誘致件
数は二十件を超え（十二月現在）、大きな実績
を上げることができました。



受賞の記者会見

「熊本県産廃棄物税」を導入し、産業廃棄
物の排出抑制やリサイクルなど適正な処理を
進めるとともに、家畜排せつ物や生ごみをた
い肥として利用するなどバイオマスの利活
用、減農薬や減化学肥料に取り組みグリーン
農業など、循環型社会の構築を進めています。
チャリーリー永谷氏に県民栄誉賞
五十年もの長い間、カ
ントリーミュージックの
素晴らしさを伝え、国内
外に熊本の魅力を発信し
日米文化交流や観光振興
に貢献されているチャ
リー永谷氏に、県民栄誉
賞が授与されました。

平成十六年三月に開業した九州新幹線鹿児島
ルート「新八代〜鹿児島中央」間。利用者
数は順調に伸びています。平成二十三年春の
全線開業に向け、「新幹線くまもと創りプロ
ジェクト」推進本部の設立
プロジェクト推進本部
「くまもと創りプロジェクト」推進本部の設立
「くまもと創りプロジェクト」推進本部の設立



「新幹線くまもと創りプロジェクト」推進本部設立総会